

はじめに

～「最幸のまち かわさき」をめざして～

我が国経済は、企業収益の改善などを背景に緩やかに景気回復しつつあり、先行きについても、回復の動きが確かなものになると期待されております。一方で、海外景気の下振れが、我が国の景気を下押しするリスクとなっているともされております。また、本年4月から消費税率が引き上げられますが、この引上げが経済動向にどのような影響を及ぼすのか、社会保障制度の改革の動向とともに、引き続き注視していく必要があります。

このような社会経済環境の変化や少子高齢化の一層の進展といった構造的な要因などから、本市においても、厳しい財政状況が今後も続くものと見込まれます。

こうした中であっても、知恵と工夫とやる気をもって様々な課題に的確に対応し、誰もが幸せを感じられるまちとなるよう、平成26年度予算につきましては、「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」をめざして、次の考え方を基本に編成を行いました。

「子どもたちの笑顔」が輝くまちの実現を最優先課題として、まずは、**待機児童の解消**に向け、これまでの取組を加速させてまいります。また、**中学校給食の導入**につきましても、早期の実現に向け取組を進めてまいります。

災害対策の推進、交通基盤の整備、先端技術を活かした産業振興など、「**安心のふるさとづくり**」と「**力強い産業都市づくり**」に向けた施策につきましては、短期に実現すべきものと、中長期的に取り組んでいくものに分け、効率的・効果的に推進してまいります。

また、これらの施策の実現には、**持続可能な行財政基盤の確立**が必須ですので、市民感覚・市民目線をもって事務事業の見直しや施策・事業の重点化等を進め、限られた財源を効率的・効果的に配分するなど、財政の健全化にも取り組んでまいります。

昨年11月の市長就任から、限られた時間の中での予算編成となりましたが、私が公約に掲げた取組とともに、市民の皆様の暮らしにとって欠かすことのできない市民サービスを安定的に提供するため、必要な予算を確実に配分いたしました。

平成26年度予算は、私が市長に就任して初めての予算となりますが、「**川崎を一步先へ、もっと先へ**」進めるまちづくりに向け、**まずは第一歩を踏み出す予算**となるものと考えております。

今後、「最幸のまち かわさき」に向けた取組をより確かなものとするため、新たな総合計画等の策定に着手してまいります。その間、この予算と、施政方針及び行財政運営に関する改革プログラムに基づいて、市政運営に取り組んでまいりたいと考えております。

「全ては市民のために」を合言葉に、私をはじめ職員一丸となって全力を尽くしてまいります。

平成26年2月

川崎市長 福田 紀彦